

最新実例&プラン満載のキットハウスマガジン

楽しく建てよう・作ろう！

'18-'19

キットハウス

全国ログ&キットハウスをチェック

大誠ムック49 定価 1,500円

最新 建築実例特集

憩いのひと時を過ごす処
ログハウスで喫茶を愉しむ理由
自分で実践するDIY
谷中工作室(東京)
DIY FACTORY(東京)
ストロブを使うならコシは必要
薪ストーブメンテナンス必需品
匠木工講習を訪ねる
家具工房アンロージユファニチャー



自分のための Easy LIFE House



保存版

キットハウス
オールカタログ

285件

キット&ログのポータルサイト
ログハウスファン 検索



玄関の下駄箱は大きい。車椅子や松葉杖などの救護物資も備えられる。



子どもたちが行き来しやすいよう回廊を巡らせる。バリアフリートイレやシャワーにそのまま入れる。



明るく広々とした多目的ルーム。風が南北・東西の2方向に抜ける作りになっている。



右：幅があって傾斜がきつくない階段は登りやすい。
中：多目的ルームの上部は開放的な吹き抜け。
左：1階トイレはバリアフリー。外部の回廊からそのまま入れる。

サエラの技術力で実現した木の管理棟。それを、早速見てみよう。
まずは、多目的ルーム。天候が崩れた時の避難場所、食堂、ミーティング、レクリエーション、講習会などに使う。当然、広い空間が必要だ。用途に合わ

**開放的な多目的ルーム
100人規模の大きな厨房**

それがサエラホームだった。自社工場でのログ材を加工し、希望を実現する技術を持っていた。

「特殊なつくりなので『ちょっと無理ですね』と言われちゃうんです」そんな折、岡山県内で付き合いのある業者・両備グループの(株)アール・エステートサービスが、ログビルダーを探してきてくれた。

それがサエラホームだった。自社工場でのログ材を加工し、希望を実現する技術を持っていた。

が、いかんせん老朽化していた。「ログハウスがいいね」と、実は20年くらい前から言っていたんです」一口に管理棟といっても、用途は色々。事務所として使う他、引率者の宿泊、悪天候時の避難場所、救護室、シャワールーム、多目的ルームなど、それなりの施設が要求される。

そして、キャンプサイトは2箇所。小学生用の「エンジェル村」と中学生から大人用の「アポロ村」。それぞれにログハウス1棟ずつが必要だ。

となると、実現できるログビルダーは限られる。何軒かあたってみたが輸入メーカーなどはキットが決まっています、なかなか融通が効かない。

「特殊なつくりなので『ちょっと無理ですね』と言われちゃうんです」そんな折、岡山県内で付き合いのある業者・両備グループの(株)アール・エステートサービスが、ログビルダーを探してきてくれた。

それがサエラホームだった。自社工場でのログ材を加工し、希望を実現する技術を持っていた。

それがサエラホームだった。自社工場でのログ材を加工し、希望を実現する技術を持っていた。

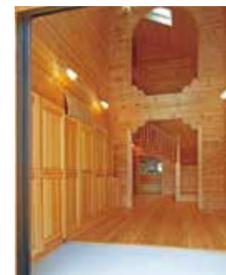


**キャンプ場にログハウス
島の自然を丸ごと体験**

キャンプ場のある島全体が青少年育成の場。自然そのものを体験し、自然の良さを感じてほしい。だから、そこに建つ家は、やっぱり本物の木の家・ログハウスがいい。



子どもたちを見守る迫力のログハウス。こちらは中高生から大人用キャンプ場「アポロ村」の管理棟。玄関スタンドガラスは太陽がモチーフ。



玄関ホールは高さがあって広々。



小学生用「エンジェル村」の管理棟も全く同じ形。こちらのスタンドガラスは天使がモチーフ。



キャンプ場管理主任・深見俊章さん。子どもたちからの愛称は「ごろうさん」

**日本のエーゲ海・牛窓
風光明媚な瀬戸内に浮かぶ黄島**

波間にきらきら西国の陽の光。瀬戸内・牛窓は、日本のエーゲ海と呼ばれる風光明媚なところ。海岸に立って沖を見渡すと、ひとつ、また、ひとつと、こぢんまり島々が目にも楽しく水面に浮かぶ。取材班は、そのひとつに渡る。「青少年育成のために、キャンプ場として利用しているんです」向かう小舟で説明してくれたのはキャンプ場を管理する「ごろうさん」。その黄島には10分ほどで着いた。

**憧れのログハウスを
キャンプ場の管理棟に**

ここ黄島は、宗教法人・神慈秀明会が所有する周囲4キロほどの島。信者さんの子どもたちが夏を中心に自然と触れ合うために訪れるそう。島でのキャンプは50年以上前から続く。始まりは昭和37年。小中高向けのテント泊プログラムがあり、大学生は世話をする側として参加する。「キャンプ場に似合うログハウスの管理棟を作ろうと考えたのです」迎えてくださったのは、ここ黄島支所・支所長の岡村さん。「美を重んじる考えは教義の一つ。見た目にも気持ちのいい、教育の場にあった建物にしたかったです」以前にも管理棟はあることはあった

事務所には宿直用スペースがある。キャンプシーズンには忙しくなる。



宿直スペースにある2段ベッドは、ごろうさんお手製。古い管理棟の端材と自然木を活用している。



引率者が使用する洋間。明るく気持ちの良い室内。

サエラホームの
ワンポイントアドバイス

ログハウスの雰囲気、よりログハウスらしくというご希望に沿ってDログを使用しました。自社工場で行うため、自由設計でご希望のログハウスを建てられます。わたしたちと一緒に、こだわりのログハウスを造ってませんか。

キットハウスアイテム フリープラン



取材協力/株サエラホーム <http://www.saelahomes.com/>
 広島県広島市南区出島 2-20-12 TEL. 082-256-4550
 施工/株アール・エステートサービス

ログハウスを通して自然のものはいいと学んで欲しい

新しくなった管理棟に、今、岡村支所長は、とても満足そうだ。「入った瞬間に心地よさを感じます。木の香り、温もり感……。子どもたちを預かる上で安心感が持てます」
 景観にもマッチしている。島の雰囲気に溶け込んで、その様子を子どもたちに見せてあげられるのが嬉しいのだ。子ども達も嬉しそうだ。みんなログハウスと写真を撮りたがる。「大学生たちは、インスタ映えって

「自然のものはいいと、ログハウスを通して学んで欲しいです」
 キャンプのための準備は、いろいろ大変だ。だけど、子どもたちの顔を見ると苦労は吹き飛ばす。汗を流してログハウスを建てて良かったと思う。「生きがいになっていきます」
 島ひとつ丸ごとで体験する掛け値なしの自然。そこに構える木の家は、なるほど、ログハウスがい。

「スタッフ2人とボランティア数人で床のヤスリがけや塗装を手伝いました。広いのでしんどかった！」
 でも、それは貴重な体験だった。釘を使わずにログ材を組んで形になるのを目の当たりにする。現場で微調整するプロの技術はすごい！
 「楽しかったです！」

「自然を満喫して欲しいです」
 ここでは、自然農法で野菜も作る。その食材で自炊をするのだ。農園で、キャンプで、自然のものが体にいいというのを感じてもらいたい。
 「言葉だけじゃなくて、住空間、自然環境によって子どもたちが変わる、成長するのを実感しています」
 そして、ごろうさんはこう言う。



引率者が使用する和室。障子を開けた丸窓から1階多目的ルームが見渡せる。



フリースペース上の天窓から柔らかい明かりが差し込む。



2階フリースペース。真ん中のテーブルはごろうさんの手作り。



1階の救護室。真ん中のテーブルはごろうさんの手作り。

せて広さを変えられるよう開閉式の仕切りを2箇所設けてある。
 「明かりや空気の循環を考えて、上は塞がないことにしたんです」
 なるほど、多目的ルーム上部は、全面が吹き抜けの開放空間となる。そこに天窓から自然の明かりが柔らかく差し、心地よい空間が広がる。
 厨房も必要。100人規模の大きなものとした。調理器具や冷蔵庫、コンロ、棚など最低限の設備を整えた。
 「厨房内のレイアウトは、サエラさんと何度も打ち合わせを重ねました」
 ログハウスの躯体には構造上の制限がある。片や、厨房には、電気、ガス、水道の配管など、どうしても必要不可欠な設備がある。その配置にだいぶ知恵を絞ってもらった。
 そして、シャワールーム。4人が同時に使える数を揃えた。ここでは、ちゃんとタイムキーパーがいて、水のありがたさを教えているそう。
 「ここで使える水は、井戸水と雨水のみ。ここでのキャンプが水の大切さを学べる機会になればと思います」
 それから救護室。気分が悪くなった子どもが休むところだ。男の子用と女の子用の2室を確保した。
 引率者の部屋は2階に。洋室、和室を揃えた。和室からは、多目的ルームが見下ろせる内窓を設けた。
 施工には、キャンプ場スタッフも加わった。その一人が、取材班をこまめに小舟で送ってくれたキャンプ場管理主任のごろうさんだ。